

# En voir de X の構文化の可能性を探る

木島 愛

## 1. はじめに<sup>1)</sup>

現代フランス語の視覚を表す動詞 *voir* の辞書記述を確認すると、幾つもの意味に加えて、多くの慣用表現や成句がある。その中でも、本稿では、以下のような表現に焦点を当てる。

(1) *en voir de* [bleues / belles / vertes et de pas mûres]

pronoun / *to see* / preposition / *blue / beautiful / green and unripe*

これらは多少の差はあるが、全て「ひどい目に遭う、辛い目にあう」という訳になる。形式的には (1) で示した表現に共通する要素は *en voir de* という部分だけであり、後続する要素の品詞や意味は異なっている。にもかかわらず、慣用表現として同じような意味で使用されているのはなぜなのだろうか。本稿ではひとまず「構文化の概念には内容語から機能語への通時的変化をその考察対象とする、文法化の概念がその根底にある。文法化を単一の語彙項目の形式、意味、文法機能の通時変化、他方、構文化を構文全体に対する形式、意味、文法機能の通時変化と捉えることとする」(堀江：343) という定義を踏まえ、異なる要素を X とし、共通している統辞構造 *en voir de X* を 1 つの構文として分析することが可能か検討する。具体的には、*en voir de X* の各要素の結びつきを精査し、实例観察を通して X として使用される要素に通時的変化が生じていることを明らかにする。

## 2. なぜ *en voir de* なのか？

多義として知られているフランス語の動詞 *voir* を含む慣用表現は、仏和辞書と仏仏辞書に 100 以上記載されており、それらを観察してみると、辞書によって記載内容が異なる表現がいくつもある。その中でも、先に挙げた (1) は辞書ごとの記述の差が大きい (cf. 木島 2019)。一般的に日本国内でよく使用されている『ロベール仏和大辞典 (以下、「ロベール」と略す)』『ロワイヤル仏和中辞典 (ロワイヤル)』『新スタンダード仏和辞典 (スタンダード)』の 3 つの仏和辞書の記述は以下の通りである。<sup>2)</sup>

(2) a. *en voir de belles* [de bleues, de toutes les couleurs, de(s) vertes et de(s) pas mûres]

([話]ひどい目に遭う)(ロベール)

b. *en voir* (de belles, de toutes les couleurs) (つらいめにあう、不幸続きである)(ロワイヤル)

c. *en voir de belles* (ひどい目にあう)(スタンダード)

d. *en avoir vu* (des vertes et des pas mûres) dans sa vie

(人生で何度かつらいめにあっている)(ロワイヤル)

e. *en avoir vu* (bien) d'autres

(もっとひどいめにあっている、これしきのことでは驚かない)(ロワイヤル)

f. en avoir vu bien d'autres

(もっとつらいことを経験している, それぐらいのことでは驚かない)(ロベール)

g. en faire voir (de toutes les couleurs) à qn (人をさんざんな目にあわせる)(スタンダード)

h. en faire voir (de toutes les couleurs) à qn... (をつらいめ[ひどいめに]あわせる)(ロワイヤル)

このように, 3つの仏和辞書を比べるだけでも, この表現の記載方法が定まっていないことがよくわかる. ロベールでは (2a) のように, *belles / bleus / toutes les couleurs / vertes et de pas mûres* が同様の意味として記載されているが, ロワイヤルでは (2b) *belles / toutes les couleurs* と (2d) *vertes et de pas mûres* に分かれています, (2d) では *des vertes et des pas mûres* という要素すら省略が可能となる. さらに, (2a) では *de(s) vertes et de(s) pas mûres* となっているように, *de* も *des* も容認される. また, (2e, f) の *d'autres* は複数名詞に先立ち「他のいくつかの」という意味でよく使われ, *en* が具体的な名詞句を指す場合には, その量を問題とすることができるので, 他の *X* とは異なるように思えるが, (2e, f) の意味は「ひどいめにあっている」であり, 他の *X* の場合と類似している. また, (2) で共通する動詞 *voir* を比較すると, (2d, e, f) は過去形, (2g, h) では使役の *faire* と共起し, 間接目的語 *à qn* が必要となるという違いが確認できる. このように, 同じような意味を表すにもかかわらず, 複数の記載があり, 使い分けも明確ではない. 特に外国語学習者は辞書の記述だけでこれらの表現を理解するのは難しいだろう. 次章から, まず統辞的に共通する要素である *en* を確認し, 次いで後続する要素 *X* を分析する.

### 3. 代名詞 *en*

フランス語の中性代名詞 *en* は動詞と接合して使用される場合, 名詞, 不定詞, 節の代理語となるが, *en voir de* を含む表現を観察すると, 代名詞 *en* の指示対象が具体物であるか否かによって, *voir* の意味は異なる. まず, 指示対象が具体物を示す場合を見てみよう.

(3) Pendant qu'il avançait vers Suzanne, tous regardaient son diamant : le père Bart, Agosti, la mère, Suzanne.

Pas les passagers, ils en avaient vu d'autres, ni Joseph parce que Joseph ne regardait que les autos. (*Un barrage contre le Pacifique* : 43, 下線と強調は筆者による, 以下同様)

彼がシュザヌのほうにむかって進み出てくる間, みんな彼のダイヤモンドを眺めていた. みんなというのは, バール親爺, アゴステイ, 母親, シュザヌだ. 船の乗客たちは違う, 彼らは他にいくらでも見たことがあるのだ. ジョゼフも違う, 彼が見るのは自動車だけだから. (33)<sup>3)</sup>

(3) では (2e, f) と同様, *en voir d'autres* という形式が用いられているが, *en* は既出のダイヤモンド (*diamant*) という具体的な対象を示し, *voir* は「見る」という実際の知覚を表している. 次も *X* が *d'autres* の場合である.

(4) Un petit grain. Rassurez-vous, le zeppelin en a vu d'autres. (*La dame de Berlin* : 354)

ちょっとしたスコールじゃよ. 安心なさい, ツェッペリンはこんな目に何度も会うておる (454)

(4) は飛行船が大きな揺れや激しい振動に見舞われているという状況を受けての発話であり、en は具体的な指示対象を示していない。この場合の en は節全体の代理と考えることができ、voir は実際の知覚ではなく、en voir de X と同じような意味で使用されている。

次に、先に確認した (2) と同じ形容詞が使用されているが、en が具体的な指示対象を示す例を確認する。(2a, b, c) の X は女性複数形 belles なのに対し、(5) は女性単数形 belle, (6) は男性単数形 beau である。加えて、(5) も (6) も副詞 aussi (同じくらい) を伴っている。

(5) Et au jour de l'An suivant, au lieu d'envoyer au docteur Cottard un rubis de trois mille francs en lui disant que c'était bien peu de chose, M. Verdurin acheta pour trois cents francs une pierre reconstituée en laissant entendre qu'on pouvait difficilement en voir d'aussi belle. (Du côté de chez Swann : 249)

そして翌年の元旦には、コタール医師にほんのおしるしですなどと言って三千フランのルビーを贈るかわりに、ヴェルデュラン氏は三百フランで模造の宝石を買い、コタールにこんなきれいなものはざらに見られないと言ったことを仄めかしたのであった。(46)

(6) Ah ! je suis contente que vous appréciiez mon canapé répondit Mme Verdurin. Et je vous préviens que si vous voulez en voir d'aussi beau, vous pouvez y renoncer tout de suite. (Du côté de chez Swann : 255)

「まあ嬉しいこと、私のソファを誉めてくださって」とヴェルデュラン夫人は答えた、念のために申し上げておきますけど、このくらい美しいソファをごらんになろうとお思いになっても、すぐに諦めになった方がよろしゅうございますよ。(58)

(5) と (6) における en はそれぞれ une pierre reconstituée (模造の宝石：女性単数)、mon canapé (私のソファ：男性単数) という具体的な指示対象を示し、形容詞 belle と beau は en の指示対象に性数が一致している。また、aussi は具体的な対象との同等比較を表し、(2a, b, c) のような「ひどい目にあう」という意味にはならない。つまり、en voir de X の en が具体的な指示対象を示す場合には、X の要素に関わらず、慣用表現として用いられることはないようである。この en については、*Le bon usage* にも「代名詞 en が動詞の補語であり、名詞の代用である時、後続する形容詞の一致を引き起こすにもかかわらず、指示対象が現れない場合がある」と記載があり、以下の例が挙げられている。

(7) Il vous en fera voir de belles. (*Le bon usage* : 951)

(7) は il vous donnera du souci (あなたを苦労させるだろう) という意味であり、ここで使用されている形容詞 belles (原形 beau) は反語的に使用され、この文において何が省略されているのかは明らかになっていないと説明を加えている。<sup>4)</sup>

#### 4. En voir de に後続する要素

次に en voir de X において、どのような要素が X として使用できるかを調べるため、仏仏辞書の中でも最大の語彙数を含む *Le Grand Robert* を確認する。この辞書に記載されている言い回し (expressions)、成句

(locutions), 諺 (proverbes) の中で *en voir de* を含む表現を以下に挙げる.

- (8) a. *en voir de belles* (des choses extravagantes ou pénibles : 突飛な事態, 辛い状況)  
b. *en voir de bleues* (subir des mésaventures : 厄介な出来事を被る)  
c. *en faire voir de cruelles* [à qqn] (être extrêmement dur avec lui : その人にとって非常に厳しい)  
d. *en voir de drôles* (voir des choses curieuses ou désagréables : 妙なこと, 困ったことに会う)  
e. *en voir de dures* (des choses pénibles à supporter : 辛抱するのが辛い状況)  
f. *en voir de rudes* (en supporter beaucoup : 非常に耐える)

ここで X として用いられているのは全て形容詞の女性複数形である. この事実は, X として形容詞が用いられる場合に制約があることを表しているが, それらの意味は a. *belles* (美しい), b. *bleues* (青い), c. *cruelles* (残忍な), d. *drôles* (面白い, 奇妙な), e. *dures* (固い, 困難な), f. *rudes* (粗野な, 過酷な) と, 全く異なっているのである.<sup>5)</sup> また, (8b) には *en voir de toutes les couleurs* を参照するように書かれており, (2) でも確認したように, 形容詞だけではなく名詞句も X として用いられる. 名詞句の場合には形容詞の女性複数形のような語彙的制約はない. しかし, X が形容詞であっても名詞句であっても「ひどい目に遭う, 辛い目にあう」という意味は共通している. これは *en voir de X* に意味的固定性が認められるからだと考えられる. 以下で実際の使用を確認しよう.

#### 4.1. コーパスにおける *en voir de X*

本稿では Frantexte をコーパスとして使用する.<sup>6)</sup> まず, Frantexte の現代の文学作品 (1980 年以降) から, *en voir de* が含まれる文章を全て抜き出すと, 後続する X は以下のようにになっている.

[表 1 : 「現代」フランス語コーパスにおいて *en voir de* に後続する要素]

<i>toutes les couleurs</i>	(あらゆる色)	7
<i>rudes</i>	(粗野な, 厳しい)	2
<i>toutes sortes</i>	(あらゆる種類)	1
<i>dures</i>	(固い, 困難な)	1
<i>vertes et de pas mûres</i>	(緑で熟していない)	1
<i>cruelles</i>	(残忍な, 冷酷な)	1
<i>drôles</i>	(面白い)	1

この結果を元に, プレ調査として, 数名のフランス語母語話者に各要素を言い換えることが可能かどうか尋ねたところ, 2 番目に数が多かった *en voir de rudes* に関して, 「昔の表現で, 意味はわかるが使用しない」という意見が複数あった. 通時的变化を確認するため, 表 1 で扱った表現の 20 世紀以降 (1900-1999), 近代 (1800-1979) における使用を調べると,<sup>7)</sup> 以下のような結果となる.

[表 2 : en voir de に後続する要素の時代比較 (括弧内の数字は括弧内の表現に対応) ]

	1980-	1900-1979	1800-1899
toutes les couleurs (toutes couleurs)	5	9	- (1)
rudes	2	-	-
toutes sortes (toutes les sortes)	1	4 (1)	-
dures	1	3	3
vertes et de pas mûres	1	1	
cruelles	1	-	2
belles	-	3	12
drôles	1	3	2

この結果、フランス語母語話者の「昔の表現のように感じる」という en voir de rudes は、1800-1979年には使用が確認されなかった。この母語話者の意見は、歴史的変遷に基づくものではなく、より主観的なものであるように推測される。また、同じ表現の使用を年代順に確認すると、時代による変化が生じている要素も存在する。形容詞 belles の使用に顕著に現れているが、1800-1899年には多く使われていたが、徐々に使用が減り、1980年以降には確認されていない。また、toutes les couleurs と toutes sortes の名詞句の使用は主に 1900年以降であることもわかる。この2つの名詞句に関しては、toutes couleurs という定冠詞 les がない形や、反対に定冠詞を含む toutes les sortes という場合が確認された。しかし、これらの定冠詞の有無による差異を明らかにすることは、本稿の目的ではないため、ここでは指摘するに留めておく。1900年以降に使用が確認されている toutes sortes であるが、en voir de に後続する要素として記述している辞書はない。次節で詳しく見るが、toutes sortes は表1や表2で示した他の要素との言い換えが可能であり、en voir de X に共通する意味的固定性が認められるのである。

#### 4.2. Xとなる要素の等価性

1980年以降に en voir de X として最も使用されている、Xが toutes les couleurs の場合から見てみよう。

- (9) Elle était verte, moi, j'étais bleu. J'en vois de toutes les couleurs avec elle. Il suffit d'un mot un tantinet de travers, d'une inflexion de voix, d'un timbre. (Dobrovsky Serge - *Le Livre brisé*)

(彼女は蒼白で、私は真っ青だった。私は彼女のことで苦勞している。間違った一言、声の変化、ある印だけでたくさんなのだ。) (訳および下線と太字は引用者による、以下同様)

(9) の下線部に含まれる en voir de に後続する X の言い換えの候補として、以下の (10) のように、実際に X として辞書記載がある a. dures, b. cruelles, c. rudes, d. belles, e. vertes et de pas mûres と、辞書に記載はないものの使用が確認できた f. toutes sortes という6つの選択肢を作成し、フランス語母語話者<sup>8)</sup>に、言い

換えるとしたらどの表現を選択するかという調査を実施した。

- (10) a. ? J'en vois de dures avec elle.  
b. ? J'en vois de cruelles avec elle.  
c. ? J'en vois de rudés avec elle.  
d. J'en vois de belles avec elle.  
e. J'en vois de vertes et de pas mûres avec elle.  
f. J'en vois de toutes sortes avec elle.

この場合、(10d) と (10e) が各 4 名、(10d-f) の 3 つ全て容認できるという答えと、(10a-f) では言い換えができず、*J'en vois avec elle!* という *de X* のない表現で言い換えができるという回答があった。ここで興味深いのは、辞書に記載がある *X* が *dures / cruelles / rudés* による言い換えは難しく、*X* が形容詞である場合には (10d) の *belles* が最も妥当であると判断されることである。先の表 1 と表 2 で示したように、コーパスの 1980 年以降では *X* として複数の形容詞の使用が確認できるが、*belles* の例は 1980 年以前の使用しか確認できなかった。*X* が *belles* である例は、他の要素と比べても 1800-1899 年に多く 1900 年過ぎから少なくなっているにもかかわらず、言い換える場合の選択肢として、現在でも妥当だと判断されるのである。次に、*X* が *vertes et de pas mûres* の例を見てみよう。

- (11) a. Malgré son air apeuré, ses manières humbles et crispantes, Rima avait séduit Alice, fraîcheur de banlieue, mince et vive, le regard costaud sous la frange de cheveux châtain, l'habitude d'en voir de si vertes et de tellement pas mûres qu'à seize ans elle pouvait se permettre d'aimer un Rima. (Vergne Anne - *L'Innocence du boucher*) (彼の怯えた様子、控え目で緊張した態度にもかかわらず、リマはアリスの心を捉えた。郊外のような新鮮さ、華奢で活発であり、茶色の髪の下にある力強い視線は、16 歳にしては辛い目に遭うことに慣れている、彼女はリマを愛することを自分自身に許すことができたのだ。)
- b. l'habitude d'en voir de **toutes les couleurs** qu'à seize ans  
c. l'habitude d'en voir de **toutes sortes** qu'à seize ans  
d. l'habitude d'en voir de **belles** qu'à seize ans  
e. l'habitude d'en voir de **rudés** qu'à seize ans

(11b-e) は、言い換えが可能だと判断された文である。この中でも、(11b,c) が各 6 名と多く、両方が可能だという意見もあった。ここでも、(11d) *belles* が可能であるという回答があったが、1 名だけであり、(11b-d) の全てが可能という意見であった。特筆すべきなのは、1 名だけ (11e) が可能であると回答があったことである。*X* が *rudés* である発話は、プレ調査の時点から「意味はわかるが使用しない」という回答が多く、*X* の要素による言い換えの調査を行なった多くの例文の言い換え要素として、上記 (11) 以外で選択されることはなかった。しかし、1 名だけであること、年齢が 60 代以上という条件も考慮すべきなのかもしれな

い。X が *rudes* の場合に「昔のように感じる」という意見があったが、世代の差によって容認度が変わるのであれば、ある時代の一時的な使用であった結果かもしれないからである。次に、X が形容詞である場合を見ていくことにしよう。まず、1800年以降、一定の使用が確認できる X が *dures* の場合である。

- (12) a. Je me trouve à table auprès d'Amaral, l'ex-ambassadeur du Brésil au Chili. Il exulte de joie et dit: « Vous savez qu'ils sont encore en révolution? Cette soi-disant aristocratie va en voir de **dures**!». (Hoppenot Hélène - *Journal 1918-1933*) (彼は歓喜し、言った「彼らがまだパニック状態であることを知っていますか? このいわゆる特権階級は苦勞するでしょう!」)
- b. Cette soi-disant aristocratie va en voir de **belles**!
- c. Cette soi-disant aristocratie va en voir de **toutes les couleurs**!
- d. Cette soi-disant aristocratie va en voir de **vertes et de pas mûres**!
- e. Cette soi-disant aristocratie va en voir de **toutes sortes**!

ここでは、(12b) に示した *belles* による言い換えが最も支持される。次いで (12c), (12d, e) という結果であった。<sup>9)</sup> なぜ (12b) を選んだのかという理由を尋ねると、引用元のタイトルが *Journal 1918-1933* であることから、時代背景を考慮し、一番伝統的と感じる *belles* を選んだという回答が得られた。そう考えると、表2で示したように、1800-1899年に比べると近年では *en voir de belles* の使用そのものが減っていて、古典的な印象を与えるという事実が裏付けられるようである。さらに、1800-1899年と1980年以降にも使用が確認されている *cruelles* の例を見てみよう。

- (13) a. Ma mère est à Paris.  
Grand'Mère se crève pour nourrir toutes ces jeunes bouches affamées. Elle a dû en voir de **cruelles** !  
(Prin Alice, *Souvenirs retrouvés*) (私の母はパリにいる。おばあちゃんは、これらすべての空腹の若者を養うためにくたくたになるまで働いている。彼女は辛い目をみたに違いない!)
- b. Elle a dû en voir de **belles**.
- c. Elle a dû en voir de **toutes sortes**.
- d. Elle a dû en voir de **toutes les couleurs**.
- e. Elle a dû en voir de **vertes et de pas mûres**.
- f. Elle a dû en voir de **dures**.

(13) でも、フランス語母語話者の半数が (13b) の *belles* での言い換えが妥当だと回答し、次いで (13c), (13d, e), 1名だけ (13f) という結果となる。ここでも *belles* が言い換えの要素として最も選択されやすいことを示している。最後に、X が *rudes* となっている例を確認しよう。

- (14) a. Dans le wagon à côté, les gens ont fait la lessive de la marmaille. Des couches sont suspendues sur une corde, tendue au travers du wagon.  
Je m'entraîne à un sport nouveau : monter et descendre du wagon sans le secours de personne (quelque

chose comme une hauteur de près de 2 m).

Je dois glisser d'abord sur le derrière et mon manteau beige en voit de rudes. (Auroy Berthe - *Jours de guerre : Ma vie sous l'Occupation*) (隣の車では、子供たちの洗濯物を洗っていた。車と車の間に張られた紐にオムツが干されている。 / 私は新しいスポーツのトレーニングをしている。そのスポーツとは誰の助けも借りずにワゴン車を乗り降りするのだ (高さ約 2 m 程度)。 / 私はまず裏側に滑り込み、私のベージュのコートは大変なことになる。

- b. mon manteau beige en voit de **toutes les couleurs**.
- c. mon manteau beige en voit de **belles**.
- d. mon manteau beige en voit de **vertes et de pas mûres**.
- e. mon manteau beige en voit de **toutes sortes**.

X が **rudes** の場合に違和感を覚える人が多いからなのか、提示された選択肢での言い換えはできないという回答がこれまでの例よりも多くあった。<sup>10)</sup> 選択肢から選んだ場合では、フランス語母語話者の半数が (14b) を選び、(14c-e) は少数であった。また、これまで見てきた例では、主語である受益者は人であったのに対し、(14) の主語は **mon manteau beige** (私のベージュのコート) という物であり、明らかに異なっている。これらの表現が、主語が物である場合にも使用可能であるという証明でもあるが、主語の性質に関しては、もう少し考える必要がありそうである。最後にもう 1 例、X が **rudes** の例を見てみよう。

(15) a. Je fais mon inventaire au cours de la veille à New York, c'est effrayant. La reprise se fera sûrement, mais lentement, et les affaires aux États-Unis vont être sérieusement ralenties. En particulier, je pense que les organismes de ventes à crédit vont en voir de rudes. (Lazard Christian - *Journal : 1929*) (前日のニューヨークの調査をしているが、ぞっとする内容である。必ず回復するだろうが、ゆっくりだろう。そして米国でのビジネスは大幅に減速する。特に信用販売機関は大変なことになると私は思っている。)

- b. je pense que les organismes de ventes à crédit vont en voir de **toutes les couleurs**.
- c. je pense que les organismes de ventes à crédit vont en voir de **vertes et de pas mûres**.
- d. je pense que les organismes de ventes à crédit vont en voir de **toutes sortes**.
- e. je pense que les organismes de ventes à crédit vont en voir de **belles**.

(15) においても、(14) と同じような結果となった。フランス語母語話者の半数が (15b) を選び、(15c-e) は少数であり、言い換えの提案が多く見られたのである。<sup>11)</sup> プレ調査の時点での「意味は理解できるが、自分では使用しない」というフランス語母語話者の指摘に対応しているように思われる。意味的には **en voir de toutes les couleurs** と等価であると認識されながらも、本稿で扱った他の表現よりは馴染みがないということが、明らかになった。

ここまで、1980 年以降にコーパスにおいて使用が確認され、意味的固定性が認められる **en voir de X** の

X が *toutes les couleurs / vertes et de pas mûres / dures / cruelles / rudes* である 5 つの表現について、他の要素による言い換えの可能性を確認した。結論として、X として使用できる要素について、現在の使用にはいくつかの傾向があることが分かる。まず最初に、X として用いられる要素は辞書に記載されているよりも少なく、X の範列がより限定されている。次に、X が形容詞である場合は *belles* が好まれるが、少し古いが格式ある印象のようである。最後に、名詞句を用いる場合には、*toutes les couleurs* が最も使用され、辞書に記載はないが *toutes sortes* も同様に使用されている。また、使用そのものが問題となった形容詞 *rudes* に関しては、他の要素より時期が限定された使用である可能性が強く、今後更なる分析が必要である。

## 5. おわりに

本研究は、*en voir [de bleues / de belles / des vertes et des pas mûres]* という慣用表現の辞書表記の揺れを出発点とし、*en voir de X* を 1 つの構文として捉えた際の通時変化を検討した。まず、*en voir de X* という統辞構造を持つ表現は複数あるにもかかわらず、辞書記述では「ひどい目にあう、辛い目にあう」というほぼ同じような意味に訳される。これは前提として中性代名詞 *en* が具体的な指示対象を示さない場合に限られ、*en* が具体的な指示対象を示す場合には *voir* は実際の知覚を表し、このような意味にはならないのである。次に、コーパスにおける *en voir de X* の実際の使用から、X の範列が時代によって変化していることを明らかにした。1900 年以前では X として主に使用されるのは形容詞の女性複数形だったが、1900 年以降には名詞句 *toutes les couleurs* や *toutes sortes* の使用も確認できる。X として使用される名詞句として、辞書に記載のない *toutes sortes* も使用されており、言い換えの可能性からも同じ意味的特徴があるのは明らかである。また、従来の辞書には多くの形容詞が X として記載されている (*belles / bleues / cruelles / drôles / dures / rudes*) が、中でも *bleues* は使用したコーパスで 1800 年まで遡っても使用が確認できなかった。また、母語話者による言い換えの可能性から、X が形容詞の場合には *belles* の使用が多いが、これも時代と共に使用が減り、古典的な印象さえ与えているのである。コーパスにおける 1800 年代から現在までの X の変化に着目すると、X の範列には時代的な変化が生じており、現在参照できる辞書には実際の使用状況が十分に反映されているとは言い難い。以上、*en voir de X* の形式と意味の通時変化を中心に考察を行なった。文法変化として、(10) で見たように *J'en vois avec elle!* という *de X* のない表現も等価として言い換えが可能であったことから、*de X* という要素のこの形式における必要性は今後の検討課題とする。

## 註

- 1) 本研究は、科学研究費 (JSPS Kakenhi) 若手研究 (課題番号 20K13031) の助成を得て遂行された研究成果の一部である。
- 2) ここでは、日本語の意味も示したいため、あえて仏和辞書に限定して確認を行う。
- 3) 例文 (3) - (6) の日本語訳は、それぞれ出版されている日本語訳から引用しており、括弧内の数字はそのページ数を示す。使用したのは (3) 『太平洋の防波堤』河出文庫、(4) 『ベルリン強行突破』新潮文庫、(5)(6) 『失われた時を求めて 2 第 1 篇 スワン家の方へ II』集英社文庫ヘリテージシリーズである。
- 4) *Le bon usage* では、別の表現として、*en voir, en dire des vertes et des pas mûres* (あるいは *de vertes et de pas mûres*) も挙

- げており, en の存在に関係なく vert は女性複数名詞であると記している.
- 5) (8d), (8f) の形容詞 drôle と rude は男女同形の形容詞である. また, (8c) cruelles および (8f) rudes は他の仏和辞書や和仏辞書に記載はなく, *Le Grand Robert* でのみ確認できた表現である.
  - 6) Frantexte は, 16 世紀から現代に至るまでの文学作品を中心とした書き言葉コーパスである. <https://www.frantext.fr/>
  - 7) Frantexte の時代区分は「Contemporain (現代)」(1980-現在), 「20ème siècle (20 世紀)」, 「Moderne (近代)」(1800-1979) となっている. これら 3 つの区分から, 1800-1899 年, 1900-1979 年, 1980 年以降の 3 つに分けて表示する. 1650-1799 年には, en voir de X の使用は認められなかった.
  - 8) パリおよびフランス東部在住の 20 代~60 代のフランス人 10 名から得た回答結果である.
  - 9) 選択肢以外の言い換えの指摘があり, va en baver (ひどい目にあうだろう), n'est pas sprtie de l'auberge (やっかいごとから抜け出せずにいる) という意見があった. 両者とも慣用表現が使用されている.
  - 10) (14) に対して提案のあった言い換えは, mon manteau beige [est soumis (mis) à rude épreuve / en souffre / prend cher] (私のベージュのコートは [厳しい試練を受けた / 辛い思いをする / 高くつく]) であった.
  - 11) (15) の言い換えの提案は, je pense que les organismes de ventes à crédit vont [dégouter / avoir difficulté aussi / en pâtir / en souffrir] (信用販売機関は [ひどい目に遭う / 同様に苦労する / その被害を被る / 辛い目にあう] だろうと私は思っている) であった.

## 参考文献

- 天野みどり・早瀬尚子 (編), 2017, 『構文の意味と拡がり』 開拓社.
- 天野みどり・早瀬尚子 (編), 2021, 『構文と主観性』 開拓社.
- 飛鳥博臣, 1982, 「日本語動詞の階層性」『言語』第 11 巻第 13 号, pp.72-81.
- BALIBAR-MRABTI Antoinette & VAGUER Céline, 2005, « Présentation. Le semi-figement », *Linx* 53, pp.7-15.
- BOLLY Catherine, 2009, « Constructionnalisation et structure informationnelle. Quand la grammaticalisation ne suffit pas pour expliquer tu vois », *Linx* 61, pp.103-130.
- ブリントン L.J. & E.C.トラウゴット, 2009, 『語彙化と言語変化 (Lexicalization and language change)』 日野資成訳, 九州大学出版会.
- FRANCKEL Jean-Jacques et LEBAUD Daniel, 1990, : *Les figures du sujet, A propos des verbes de perception, sentiment, connaissance*, Paris, Ophrys.
- GREZKA Aude, 2006, *Les prédicats de perception. Traitement de la polysémie*, Thèse de doctorat en Science du langage, Université Paris13.
- GREZKA Aude, 2009, *La polysémie des verbes de perception visuelle*, L'Harmattan.
- GREZKA Aude et KIJIMA Ai, 2019, « L'expression de la perception visuelle : regard franco-japonais », *Lexis*, 13, <https://journals.openedition.org/lexis/3105>
- GROSS Gaston, 1996, *Les expressions figées en français*, Paris, Ophrys.
- GROSS Gaston, 2012, *Manuel d'analyse linguistique*, Villeneuve d'Ascq, Presses Universitaire du Septentrion.
- GROSS Maurice, 1975, *Méthodes en syntaxique*, Paris, Hermann.
- 堀江薫, 2019, 「文文化」『認知言語学大辞典』朝倉書店, pp.336-345.
- 石田プリシラ, 2000, 「動詞慣用句に対する統語的操作性の階層関係」『日本語科学』, 第 7 号, pp.24-43.
- 石田プリシラ, 2004, 「動詞慣用句の意味的固定性を計る方法—統語的操作を手段として」『国語学』, 第 55 巻第 4 号, pp.42-56.
- 石田プリシラ, 2015, 『言語学から見た日本語と英語の慣用句』 開拓社.
- 木島愛, 2016, 「凝結表現 n'avoir rien à voir に関する考察」『フランス語学研究』 50 号別冊『パロールの言語学』, pp.51-70.
- 木島愛, 2019, 「日本語とフランス語の視覚を表す凝結表現研究の現在」『筑波大学フランス語フランス文学論集』 第 34 号, pp.39-56.
- 木島愛, 2020, 「多言語対象研究における語彙文法理論の可能性 – フランス語と日本語の視覚を表す動詞の慣用表現を例に –」『ロマンス語研究』 第 53 号, pp.21-30.
- 今野弘章, 2019, 「注意と視覚とニ/ヲ交替」『日本認知言語学論文集』 19 巻, pp.262-272.
- MARTIS-BALTAR Michel, 1997, *La locution entre la langue et usages*, Paris : ENS Editions / Ophrys.
- 宮地裕, 1982, 『慣用句の意味と用法』 明治書院.
- MOGORRÓN HUERTA Pedro, 2010, « Peut-on traduire les expressions figées », *Les Cahiers du CENTAL* 6, *Les tables. La grammaire du français par le menu*, 251-264.
- 小川芳樹・石崎保明・青木博史, 2020, 『文文化・語彙化・構文化』 開拓社.
- SVENSSON Maria-Helena, 2004, *Critères de figement. L'identification des expressions figées en français contemporain*, Umeå : Umeå University.